

【建設業動向調査概況】

1. 調査概要

産業振興部産業連携開発課では、市内建設業の経営動向を探る手段として、アンケート調査を実施しています。

今回は 2025 年4月から6月期(2期)の業況について調査を行い、その結果については下記のとおりとなりました。

2. 調査実施要領

- (1) 実施時期 2025 年7月
- (2) 対象企業 須坂市内に事業所を有する建設業 40 社
- (3) 回答企業数 19 社(回答率 47.5%)
- (土木5社、建築・大工・左官4社、電機6社、水道4社)

3. 調査概況

実施要領のとおり動向調査を行った結果、業況判断指数(DI:「好転」と回答した企業割合と「悪化」と回答した企業割合の差)については次のとおりとなりました。

市内建設業の業況は、前期(2025 年1月～3月期)より好転しました。

前期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が 11.1%、「悪化」とする企業の割合が 33.3%で「好転」から「悪化」を引いた差(DI)は▲22.2ポイントとなりました。

前回の調査結果DIポイント ▲38.1と比較しますと、15.9ポイント好転しました。

また、前年同期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が16.7%、「悪化」とする企業の割合が 27.8%であり、「好転」から「悪化」を引いた差は▲11.1ポイントとなりました。

業種別の業況判断指数(DI)は、土木関係が20.0ポイント(前回:0.0ポイント)、建築関係が0.0ポイント(前回:▲60.0ポイント)、電機関係が▲40.0ポイント(前回:▲33.3ポイント)、水道関係が▲75.0ポイント(前回:▲50.0ポイント)となっております。

3か月後の次期予想では、「好転」とする企業の割合が5.6%、「悪化」とする企業の割合が22.2%であり、「好転」から「悪化」を引いた差は▲16.6ポイントとなり、今期より悪化すると予想されます。

経営上の問題点(複数回答可)については、「人材不足」が73.7%、「労働力不足」「受注減少」「原材料・仕入単価の上昇」が42.1%、「技術力不足」が36.8%、「競争激化」が21.1%、「金融難」が5.3%、「人員過剰」、「工期短縮」、「原材料不足」が0.0%となっております。

Q9 日銀松本支店が7月1日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は、前回調査(4月)と比較して、2ポイントプラスとなりました。製造業はマイナス9ポイントと横ばい、非製造業は、プラス15ポイントと1ポイント好転しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」10.5%、「今はないが、今後好転が見込まれる」0%、「変わらない」52.6%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」21.1%、「悪化している」15.8%。

Q10 採用活動や販売促進、情報収集を目的として、SNS や YouTube などのデジタルツールを活用されていますでしょうか。活用されている場合は、そのツールをお答えください。(複数回答可)

A 「Facebook (フェイスブック)」0.0%、「Instagram (インスタグラム)」36.8%、「X (エックス：旧ツイッター)」5.3%、「YouTube (ユーチューブ)」10.5%、「ホームページ」63.2%、「活用していない」31.6%

Q11 デジタルツールを活用されている場合、その目的をお答えください。(複数回答可)

A 「採用活動」36.8%、「認知拡大」10.5%、「販売促進(顧客獲得)」5.3%、「企業や製品のブランディング」10.5%、「顧客とのコミュニケーション」5.3%、「情報収集」5.3%

Q12 デジタルツールを活用されている場合、最も効果があると感じるツールをお答えください。(複数回答可)

A 「Facebook (フェイスブック)」0.0%、「Instagram (インスタグラム)」21.1%、「X (エックス：旧ツイッター)」0.0%、「YouTube (ユーチューブ)」5.3%、「ホームページ」47.4%、「あまり効果的だと思わない」15.8%、「分からない」15.8%

Q13 その他経営上の問題について

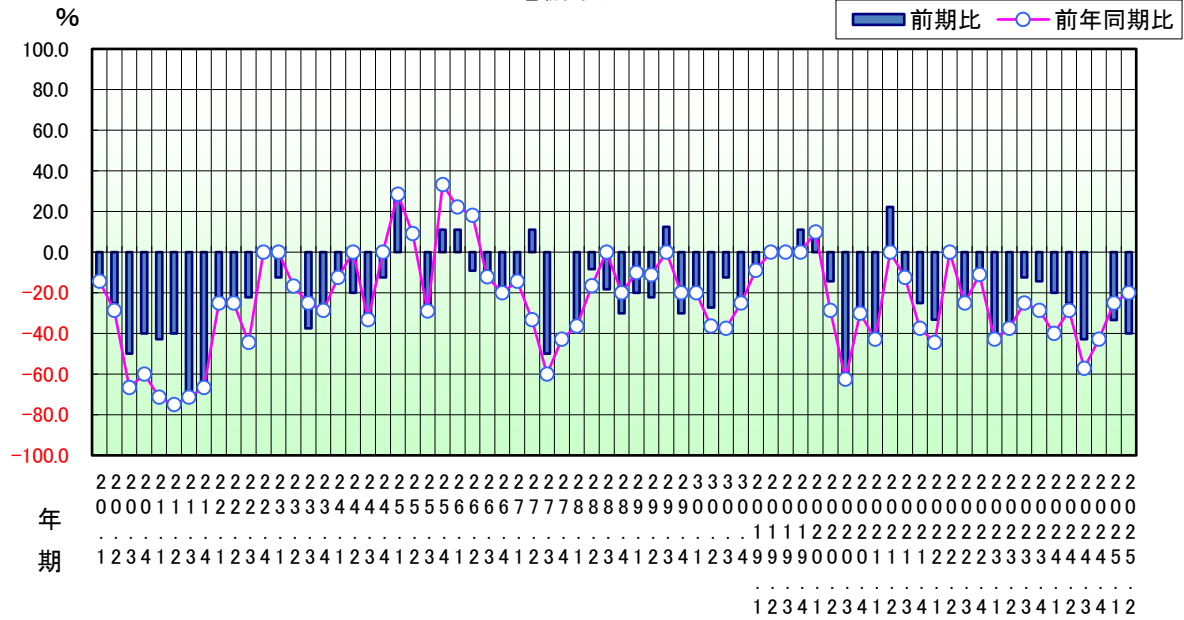
A 「左官工事が減少傾向。それ以外で対応しています。今後も減少？」

「有資格者の確保に時間的な余裕がなくなっている」

「前回と同じです。(前回：前年通り、借入金を返済で頭を悩ましています)」

「採用、人材不足」

電機業況



水道施設業況

